

## クリーンエネルギーへの移行に向けた取り組みの再確認について

**2019年の国連気候変動枠組み条約第25回締約国会議では、世界中でより野心的に気候変動対策に取り組むことを求める声明が出されました。**

これを受けて、世界の電力業界（エジソン電気協会、電気事業連合会、カナダ電気協会、豪州エネルギーネットワーク協会、欧州電気事業者連盟）のリーダーは、電力部門における二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量の削減に向けた取り組みを継続するとともに、世界規模でCO<sub>2</sub>排出量を削減していくため、特に輸送部門や産業部門における電化を支援していくことにより、クリーンエネルギーへの移行を主導していくことについて、改めて確認いたしました。

- EEI（エジソン電気協会）専務理事のトーマス・キューン氏は、輸送部門や産業部門の電化を加速していくことの重要性について、以下のように述べています。

我々は、低廉かつ安定的な電力供給を維持しつつ、可能な限り早期にクリーンエネルギーへの移行に取り組んでいく。電力部門におけるCO<sub>2</sub>排出量削減に向けた取り組みとあわせて、輸送部門および産業部門の電化を加速していく。こうした取り組みを通じて、さらにクリーンかつ強力な経済を構築していく。

- 電気事業連合会 副会長の月山将氏は、各国がそれぞれの置かれた状況に応じて最適な戦略でCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組むことの重要性について、以下のように強調しています。

クリーンエネルギーへの移行を実現するには様々な方法が存在することに加え、その方法は世界各国の置かれた政治的、社会的、経済的そして地域的な状況によって異なる。重要なことは、世界の電気事業者が、低廉かつ安定的な電力の供給を損なうことなくCO<sub>2</sub>排出量を削減するため、個々の状況に応じた最適な戦略のもとで取り組むことである。

- カナダ電気協会 CEO 専務理事 ブラッドリー・フランシス氏は、次のように補足しています。

我々は、水力発電、小型モジュール型原子炉、そして出力の変動する電源の調整力としての電力の貯蔵など、あらゆるタイプのゼロエミッション電源や技術開発に向けて投資をしていく必要がある。これにより、我々は、安全で信頼性が高く、かつ安価で持続可能な電力を提供できるだけでなく、長期的には、輸送部門など他のセクターの脱炭素化にも貢献できるだろう。

- 豪州エネルギーネットワーク協会のアンドリュー・ディロン氏と豪州エネルギー協議会 CEO のサラ・マクナマラ氏の以下のように述べています。

再生可能エネルギーの大規模かつ急速な導入に伴い、電力部門では、技術的な課題への取り組みだけでなく、顧客により多くの選択肢を提供するための技術革新を進めているところ。クリーンエネルギーへの移行を進める上で、我々の役割は非常に重要である。

- 国際協力の重要性を強調しつつ、欧州電気事業者連盟事務局長 クリスチャン・ルビー氏は以下のように述べています。

我々は、グローバルな電化を促進するための政策の構築に協力する。例えば、電気自動車の充電システムの整備などのインフラ開発を通じて、輸送部門の電化促進に尽力する。また、デジタル化、自動化そして高度なコミュニケーションネットワークを使用したデマンド管理によって可能となる、よりスマートなエネルギーインフラへの投資を継続していく。

今後、18 カ月の間に、クリーンエネルギーへの移行による長期的な脱炭素目標の達成に向けた詳細なロードマップを作成します。ロードマップは、2021 年にノルウェーで開催される日米欧電力首脳会議（IES: International Electricity Summit）で発表いたします。

（注）背景：日米欧電力首脳会議（IES）は、国際協力と親善の精神をもって、セクターが直面する主要問題と課題を検討する世界的なフォーラムです。IES は、18 か月ごとに開催され、世界中の電気事業者の CEO が一堂に会する会議です。次回のサミットは、2021 年の 9 月にノルウェーで開催予定です。